



石山寺の歩きかた

Sacred Spaces of Ishiyamadera Temple



石山寺ゆかりの人物と略年表			
奈良	天平19	747	勅願により、聖武天皇の念持仏を安置した堂舎を良弁僧正が建立。
	天平宝字5	761	造東大寺司の下に造石山寺所が設けられる。本尊観音菩薩の造像に着手。
	天平宝字6	762	このころ、堂舎が整備され十七棟が立ち並び景観を示す。本尊の彩色が終了。
平安	延喜21	921	第三代座主淳祐が師の親賢の随伴として高野山弘法大師御廟へ登山。
	天禄元	970	藤原道綱母(靖給日記の著者)が参詣する。
	長保5	1003	和泉式部が参詣する。
	寛弘元	1004	紫式部が七日間の参詣をし、8月15日に源氏物語の着想を得たという。
	寛徳2	1045	菅原孝標女(更級日記の著者)が参詣する。
	承暦2	1078	大火に見舞われ、本堂が半壊する。
	永長元	1096	本堂が再建される。
	文治年間	1185~90	朗澄によって一切経と校倉聖教の収集書写事業が完成。
鎌倉	建久年間	1190~99	東大門が建立される。
	建久5	1194	源頼朝の寄進により多宝塔が建立される。
	正中年間	1324~26	「石山寺縁起絵巻」の制作が企画され、詞書が執筆される。
南北朝	建武3	1336	足利尊氏軍と後醍醐天皇軍の戦いで戦いに見舞われる。
戦国	明応6	1497	三条西実隆が「石山寺縁起絵巻」第四巻の詞書を書写。
安土桃山	元龜4(天正元)	1573	織田信長軍と足利義昭軍が勢多川を挟み石山で戦う。
	慶長7	1602	淀殿によって諸堂が再興される。
江戸	明暦年間	1655~58	平安時代の校倉聖教の修復が行われる。(重要文化財)
	天明7~寛政年間	1878~1801	尊賢による一切経の修復が行われる。

『近江八景』にも描かれた月の名所

石山寺は月の名所としても知られ「石山秋月」は歌川広重をはじめ多くの浮世絵師によって描かれた『近江八景』のひとつとして知られています。

中国の瀟湘八景に倣って三院院近衛信尹(1565~1614)が選定したという琵琶湖湖畔の八景ですが、「石山秋月」はその一番を飾る名称です。

信尹が添えた和歌は「石山や鳩(におの)海照る月影は明石も須磨もほかならぬかなで明かに」源氏物語を意識していることがわかります。

紫式部は新しい物語を書くため石山寺に



参籠した際、湖面に映える八月十五夜の月を眺めているうちに、物語の情景が脳裏に浮かび書き留めた二節がのち「源氏物語」になります。

「須磨」明石に活かされたと伝わっています。このことにちなみ、毎年中秋の名月の頃には「秋月祭」を開催します。月見亭越しに紫式部も眺めた名月をお楽しみいただけます。

平安女流文学が開花した「源氏物語」ゆかりの花の寺

石山寺には、古来より文学者が多く参詣されました。中でも、紫式部が「源氏物語」を石山寺参籠中に起筆したという伝説は有名です。

平安時代、女性文学者たちに石山詣は人気がありました。「騎騎日記」の作者藤原道綱母は、京の都から徒歩で石山寺に参詣したとされています。明け方に出発し、逢坂の関を越えて、打出浜から船に乗り、石山寺に到着したのは夕方だったそうです。また、「更級日記」の作者菅原孝標女も石山寺に参籠したことが「石山寺縁起絵巻」に残されています。

藤原道綱母を始め参詣参籠した人々は



当時、都にほど近く、琵琶湖の風景を堪能しながら石山寺に参詣することは、観光の要素も含めて貴族の女性たちの楽しみでもあったと考えられます。

境内には、古来の神々から天智天皇まで豊ぶお祭りです。境内では、青鬼太鼓の奉納が行われます。また、大神輿が境内の石段をあがっていく様子は圧巻です。

今も昔も多くの信仰を集める日本有数の観音霊場

石山寺は山号を石光山といい、琵琶湖から流れ出る瀬田川の西岸に位置する、真言宗の大本山です。

境内には至る所に壮大な硯灰石(天然記念物)が突出し、巨大な堂宇もその上に建てられています。

「石山寺縁起絵巻」によれば、石山寺は天平19年(747)、聖武天皇の勅願により、奈良東大寺の別当良弁僧正が創建しました。平安時代には真言宗寺院となり、数多くの貴族や女流文学者が参拝する「石山詣」が盛んになりました。

ご本尊は日本で唯一の勅封秘仏「二臂如意輪観世音菩薩」で安産福徳縁結び厄除けに利益のある観音さまとして、広く信仰されてきました。

観音が33の姿で人々を救済することにちなみ、33年ごとに御開扉が行われます(次回2047年の予定)。平安時代には京都の清水寺



や奈良の長谷寺と並んで「観音」とされる多くの信仰を集めました。また、数多くの国宝重要文化財を所蔵していることでも知られており、特に經典・聖教類は「一切経」「校倉聖教」として認められ、歴代の僧侶の残した密教の智慧を今に伝えています。

参拝案内

参拝時間
開門: 午前8時~ 閉門: 午後4時30分 最終入山: 午後4時

大本山 石山寺 入山料		
	個人	団体(30名以上)
一般	600円	500円
中・高校生	600円	350円
小学生	250円	200円

●障害者手帳をお持ちの方は、志納所に手帳を提示いただくことで料金が無料になります。介護・付添いの方は1名様半額です。
●ペット同伴での入山はご遠慮をお願いします。ただし、介護犬・盲導犬は履物を脱いでご覧いただく場所以外は同伴可能です。

本堂内陣 拝観料		
	個人	団体(30名以上)
一般(中学生以上)	500円	400円
小学生	250円	250円

●拝観時間: 午前9時~午後4時 ●小学生の団体料金の取扱いはありません。

石山寺と紫式部屋 入場料		
	個人	団体(30名以上)
一般(中学生以上)	300円	240円
小学生	150円	150円

●時間: 午前10時~午後4時(入場は午後3時45分まで)
●小学生の団体料金の取扱いはありません。
●障害者手帳をお持ちの方は、志納所に手帳を提示いただくことで料金が無料になります。介護・付添いの方は1名様半額です。

大本山 石山寺 概要		
山号 石光山	所在地 滋賀県大津市石山寺1-1-1	
寺格 大本山	礼所 ○西国三十三所 第十三番	
開山 天平19年(747)	○近江西国三十三所 第三番	
宗派 東寺真言宗	○びわ湖百八霊場 第一番	
本尊 如意輪観世音菩薩(勅封)	○神仏霊場巡拝の道 第一四六番(滋賀第十四番)	

お問合せ
大本山 石山寺
 電話 077-537-0013 FAX 077-533-0133
 (一社)石山観光協会
 電話 077-537-1105 FAX 077-534-9924
 ●ホームページ <http://www.ishiyamadera.or.jp>

石山寺年間行事

※日程は変更になることがあります。あらかじめホームページでご確認ください。

- 1月1日** 開門(午前0時) / 除夜の鐘(午前2時) 香水加持法要(午前4時)
- 1月18日** 初観音法要(午前10時) 初牛玉さん(門前市)
- 2月3日** 初不動法要(午前10時) 年の明けで初めて不動明王の縁日です。午前10時から不動明王の御宝前で、護摩焚きがあります。
- 2月18日** 星祭大祈禱会 厳修(午前10時) 星祭とは、新しい節目を迎える節分2月2日に、1年の開運厄除けを祈願するものです。人はそれぞれの人が生れた年の星と、2年ごとの廻る星があり、それによって良い星まわり悪い星まわりが違ってきます。悪い星は悪事災難を免れるよう、良い星は一層出世開運するように祈禱します。
- 3月18日** 石山寺梅つくり 境内のこの梅園では、40種類以上、約100本の梅が咲き誇ります。また、境内の各所では見頃の盆花を飾り、待ちわびた春の訪れを感じていただけます。
- 3月18日** 春季「石山寺と紫式部屋」 紫式部が参籠し「源氏物語」の構想を練ったという伝承が残る石山寺では、春と秋に石山寺の歴史や文化や、ゆかりの深い紫式部と源氏物語にちなんだ展示を行っています。
- 4月中旬** あお若葉ももじ(鏡演初夏の特別拝観) 鮮やかな新緑の中、光堂特別公開での阿彌陀如来坐像、大日如来坐像、如意輪観世音菩薩像の特別公開やこの時期だけのボランティアガイドツアーを開催します。なお、石山寺界隈の店舗ではあお若葉にちなんだおもてなしメニューも用意しております。
- 5月5日** 石山祭り 日本古来の神々から天智天皇まで豊ぶお祭りです。境内では、青鬼太鼓の奉納が行われます。また、大神輿が境内の石段をあがっていく様子は圧巻です。
- 5月3日** 青鬼まつり 法要(午前9時30分) 石山寺の一切経や聖教の収集、座敷に尽力された字僧開澄律師は、自分の死後、奥の姿となつて石山寺の聖教を守り護り降魔招福を誓われました。毎年5月の第3日曜日に、律師の遺徳を偲び、杉葉で作られた青鬼像の御前で、法要が行われています。
- 8月9日** 千日会法要 厳修(午前10時) / 午後7時) 千日会とは、日の参詣が千日の功德を持つという深重悲願の日です。終日無料で、入山いただけます。観音さまの御宝前において、山の僧侶が出仕して、午前10時および午後7時より、護国の英霊の冥福を祈るとともに万霊の供養を行い、万灯供養を厳修いたします。境内には、ご供養のためのお塔婆を吊り下げた提灯が灯されます。
- 8月16日** 送り火法要(午後3時30分) 千日会が終わって提灯からはまたお塔婆は、孟買盆法要の期間中(13日から16日まで)は、送り火法要は、史や文化、ゆかりの深い源氏物語にちなんだ展示を行っています。
- 9月1日** 秋分 秋季「石山寺と紫式部屋」 紫式部が参籠し「源氏物語」の構想を練ったという伝承が残る石山寺では、春と秋に石山寺の歴史や文化、ゆかりの深い源氏物語にちなんだ展示を行っています。

11月中旬~下旬

紅葉ライトアップ
[あたら夜もみじ]
[午後5時30分~午後9時]
毎年、多くの方々に来場頂いております。石山寺もみじライトアップ、色鮮やかな紅葉と本堂、多宝塔などの建造物を美しくライトアップに照らします。日本夜景遺産にも登録された秋限定のライトアップをお楽しみください。

12月6日(8日) 仏名会 厳修(午後1時) 仏名会は、過去に未来の千仏の名を唱え、罪惡を懺悔し消滅するための法要です。本来は、新発意、新しく僧侶になられた方の行事ですが、石山寺では毎年12月6日、8日に行っており、一般の方にも参加いただけます。

12月18日 終観音(午前10時) 終不動(午前10時)

12月28日 終観音(午前10時) 終不動(午前10時)

12月28日 終観音(午前10時) 終不動(午前10時)



季節の花暦 「花の寺」と呼ばれる石山寺の境内では、四季折々の花が咲き誇ります。

